

仙台巻

大崎 石巻
東北総局

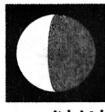
東北総局 〒980-0021
仙台市青葉区中央2-3-6
読売仙台ビル内
電話022-222-4121 F a x 222-8386
メール tohoku@yomiuri.com
石巻支局 〒986-0821
石巻市住吉町2-6-23
アソシエ21 102号
電話0225-96-9601 F a x 96-9602
大崎支局 〒989-6117
大崎市古川旭6-4-12
オフィス佐藤2-b
電話0229-22-1077 F a x 22-0049
気仙沼通信部 0226-22-6980
白石通信部 0224-25-2296
ホームページ www.yomiuri.co.jp/local/

購読は
0120-4343-81

岩沼 22-2532 名取 382-3068
船岡 54-2040 中央 223-2362
長町 248-1318 太白 245-1935
小田原262-2305 仙台北部251-6025
桜ヶ丘278-4475 泉東部351-7727
塙釜 362-8001 多賀城361-3833
【販売事務】 仙台022-262-5807
ホームページ <https://www.miyagi-yomiurikai.com/>
【広告】 仙台
読売エージェンシー東日本022-266-1562
【折込広告】 仙台022-387-3300
【読売旅行】 仙台022-222-5811

4月6日(火曜日)
旧 2月25日<友引>

■ 月齢23.7
(正午)



仙台標準
日出 5.14 満潮 8.10
日入 18.04 干潮 17.51
月出 2.24
月入 12.05
(長潮)

た。明るく接する彼が羨ましくなったと明かす。「人とのつながりが大事」だということに気づき、メツセイジとして映画に始めたといふ。今村監督によると、この10年で聴覚障害者を取り巻く環境は大きく変化した。2016年の熊本地震では手話通訳が入る避難所があり、18年の西日本豪雨では、聴覚障害者団体がボランティア受け入れ窓口を設置し、聴覚障害者が家の泥から脱け出た。いずれも映画に登場する場面だ。

手話言語条例も全国の自治体で導入が進み、県内でも今月1日から、仙台市長の定例記者会見で手話通訳者が同席している。今村監督は「これまで以上に聴覚障害者への理解が深まる」と期待したい」と話している。「きこえなかつたあの日の上映は8日まで。

聴覚に障害がある人の災害時の状況を追つたドキュメンタリー映画「きこえなかつたあの日」が、仙台市ラヴィータで上映されている。手話の普及を図る県の手話言語条例が1日に施行されたこともあり、映画を撮影した今村彩子監督(41)は「映画が、耳が聞こえない人と聞こえる人との心の距離が近づくきっかけは、東臼にになってほしい」と期待をかける。

撮影のきっかけは、東臼にになってほしい」と期待をかける。

仙台で上映中



映画館で舞台あいさつをする今村監督(3月27日、仙台市で)

本大震災の被災地で、耳の聞こえない人たちはどう過ごしているのか気になつた

ことから。今村監督も聴覚障害を持つ。被災した聴覚障害者のもとに通い続け、自らハンディーカメラを回して日常を記録してき

ことから。今村監督も聴覚障害を持つ。被災した聴覚障害者のもとに通い続け、自らハンディーカメラを回して日常を記録してき

ことから。今村監督も聴覚障害を持つ。被災した聴覚障害者のもとに通い続け、自らハンディーカメラを回して日常を記録してき

ことから。今村監督も聴覚障害を持つ。被災した聴覚障害者のもとに通い続け、自らハンディーカメラを回して日常を記録してき

手話言語条例 自治体が手話を学ぶ機会の提供や手話通訳者の養成、派遣などにより聴覚障害者が支援を受けられるよう努めることを規定する。県障害福祉課によると、都道府県での条例施行は、本県で31例目。県内で身体障害者手帳を持つ聴覚障害者は昨年4月現在で6157人。

者たちの声を拾つた。亘理町の仮設住宅で出会い得意で意思疎通に苦労していた。それでも身ぶり手ぶりを交えて、他の住人とコミュニケーションを積極的に取り、その表情は明るかつた。

今村監督は男性の姿を振り返り、「自分は聞こえる人に對して心を開ぎしてい

た。岩沼市などの避難所は、「職員の説明がわからぬ」「水や食べ物の配給の情報が入ってこない」など困難に直面した聴覚障害者たちの声を拾つた。亘理町の仮設住宅で出会い得意で意思疎通に苦労していた。それでも身ぶり手ぶりを交えて、他の住人とコミュニケーションを積極的に取り、その表情は明るかつた。

今村監督によると、この10年で聴覚障害者を取り巻く環境は大きく変化した。2016年の熊本地震では手話通訳が入る避難所があり、18年の西日本豪雨では、聴覚障害者団体がボランティア受け入れ窓口を設置し、聴覚障害者が家の泥から脱け出た。いずれも映画に登場する場面だ。